

昭和57年度 フリーハンデ決定

古馬トツプハンデは

モンテプリンス 64^キ_ロ

4歳馬はバンブーアトラス 62^キ_ロ

3歳馬はダイゼンキング 55^キ_ロ

※昭和57年のフリーハンデは、

美浦、栗東、本部の9人のハン

デキャッパーの討議の末、別表

のように決定した。

出席者

●本部審判部

小林 茂

●美浦トレーニングセンター

今原照之、岩沢弘文、岡部龍文、渡辺駿六

●栗東トレーニングセンター

柴田 裕、岩片将士、甲佐 勇、吉田武徳

フリーハンデとは

通常のレースのハンデキャップは、出走馬の実績、調子などさまざまな観点から負担重量を決定し、出走馬の「実力」を均等なものとしてレースを争わせようとするものです。

これに対して、フリーハンデは、その年度の競走馬の「格付け」をするものです。この「格付け」は単にその年度の各馬の実力比較にとどまらず、歴年の名馬の実力比較ともなります。ヨーロッパでは長いフリーハンデの歴史があり、年齢別のハンデだけでなく、距離別の全ヨーロッパのハンデがつくられています。これは生産界への指標ともなるもので、重要な意義をもっています。

本誌がフリーハンデを発表するようになって21年目。歴代名馬と比較して、昭和57年の優勝たちの実力は……!?

●4歳馬

群雄割拠も、ダービーの格を重視して

三冠すべての勝ち馬が牡、牝とも変わった57年のクラシックレースを象徴するかのようには、評価がむずかしい4歳馬だった。図抜けた馬はいなかったが、層は厚く、質も高かったと意見は一致した。ダービー馬の格を重視して、トップハンデはバンブーアトラスの62^キ。アズマハンター、ホリスキーの両クラシック馬が61^キ。

まず、年間を通した4歳馬全体の概況から話を進めていきたい。

柴田 今年クラシックの勝ち馬がすべて変わったように、傑出した馬が見当たらなかった。関西の馬についていえば、サルノキングが戦列を離れて、やや戦力が低下した感じがするが、ハギノカムイオーが中間いったん挫折しながら、中距離を中心に活躍が目立った。バンブーアトラスは、春時期もうひとつという印象だったが、ダービーで素質を見事に開花させた。神戸新聞杯での骨折が惜しい。ワカテンザンは重賞の勝ち鞍がきさらぎ賞だけが年間を通して活躍、今後の飛躍に期待したい。今原 3歳時高い評価を与えたホクトフラッグが故障のため活躍できなかったのが残念だ。それとイーストボーイ、トウショウベガサがもうひとつ伸び悩んだが、代わりにアズマハンター、アスワン、ホリスキーの3頭が目される存在になった。アズマハンターは皐月賞に勝ち、ダービー3着。少なく

ともダービーまでは非常に強いという印象を与えたが、秋に入ってもうひとつ伸び悩んだ。アスワンはNHK杯を勝ったあと、故障のため戦列を離れた。

一方、公営から中央入りしたホスピタリティがセントライト記念で強い勝ち方を見せ、注目を浴びることになった。春の段階では、アズマハンター、イーストボーイ、トウショウベガサといった馬に期待を持ったが、サルノキングが早々と東上して東京4歳S、弥生賞を連勝したころは、関東馬はやや押されている感じがあった。そのサルノキングも故障したので、一年を通じて一頭の馬を頂点とした形にはなっていない。

岩片 素質馬はたくさんいたが、まったく成績をあげている馬がいないうことがひとつの特徴ではないか。小林 サルノキングが重賞をふたつ勝ったあと、不運な骨折で挫折したので、クラシック戦線の焦点が定まらない感じになった。牝馬についても同じこと

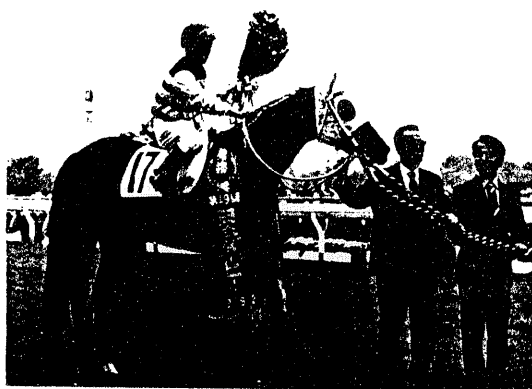
がいえると思う。ビクトリアクラウンが桜花賞直前に故障、春の出走がなかったため、牝馬のクラシック戦線の力関係が塗り替わった。だが、ビクトリアクラウンは秋に復帰して、エリザベス女王杯で強い勝ち方を見せたので、年度を通じていえば牝馬の頂点に立った。岩沢 スプリングSの勝ち馬ハギノカムイオー、また弥生賞を含めて6連勝した後のスプリングSで故障を発生したサルノキング、関東馬では牝馬のビクトリアクラウンなどがクラシックレースを前に休養したこと、そして皐月賞で小差の3着となったアサカシルバの離脱も素質馬だけに非常に残念だった。話題の中心馬ハギノカムイオーは、距離について問題があると思われるが、秋に入っての神戸新聞杯、京都新聞杯での素晴らしいレースぶりからも、今後、中距離までの競走での活躍がおいに期待できる。

吉田 たしかに、ハギノカムイオーは二千五百メートルの距離では、4歳馬として抜群の強さを持っている。神戸新聞杯、京都新聞杯の二連勝は高く評価したい。クラシックの勝ち馬がそれぞれ変わったこともあるが、バンブーアトラスは前年の二冠を制したカトトップエースに比べると、ダービーを勝ったものの、その前後の成績が物足りない。ホスピタリティは評価の分かれる馬だと思われ、正直いって評価が難しい。牝馬のクラシックは、すべて関東馬が勝ったが、全体の力という点では、平年並みという考え方でいいのではないか。

岡部 アスワン、アサカシルバ、イーストボーイというように、期待された馬が故障のため戦列を離れてしまったのを見て、一年間を通じて活躍することがいかに難しいかを改めて感じたと思う。

渡辺 クラシックの勝ち馬は変わったが、全体的に56年と同じ位の力量の馬が揃ったといえるのではないか。ダービーを制したバンブーアトラスは神戸新聞杯でも、負けたとはいえず、直線の末脚には見どころがあった。アズマハンターについては前年のサンエイソロンと比較しながら、評価を出したいような気がする。菊花賞を勝ったホリスキーのレコード勝ちの評価できるにしても、ハギノカムイオーのペースが速かったのが、実力的に果たしてどうかという感じがする。

柴田 ただ、ここ四、五年の4歳馬と比べると、かなり水準の高い年度だったということがいえるのではないかと、岩片 クラシックの特徴をあげると、レース前に高く評価されていた馬が勝てず、さほど注目されていなかった馬が勝ったということがいえると思う。それだけに評価が難しいところがある。——では、ランクづけに入るとして、これまでトップに置く馬は62^キという例が多いが、それよりも上にいく馬がいるかという点から。



バンブーアトラス

'82年のフリーハンデ

4 歳 馬

小林 例年より下にするのではないと思う。
 今原 3歳のときも期待したように、全体の層としては質量ともに厚い。前年のカットトップエースの62^{*}にもいろいろ議論があったが、バンブーアトラスについては、ダービーの格、全体の層から判断しても、62^{*}に評価してはかの馬を考えていくべきではないか。岩沢 層が厚く上位馬の力量が接近しているなかでのダービー優勝馬バンブーアトラスは、例年のダービー馬と同じように62^{*}に評価したい。
 岡部 62^{*}でいいとは思いますが、例年トップにくる馬には、もう少し安定した成績があった。今年は、アズマハンター以外、単発的な成績しか残していない。
 柴田 個性のある馬が多かったということがいえるのではないか。バンブーアトラスはNHK杯、ダービー、神戸新聞杯の三走しか上位馬と手合わせをしていないが、神戸新聞杯の二千円で3着、ダービー馬としての力を示した。例年のダービー馬より下に見ることはない。
 今原 個々の馬についての評価が難しい年だ。一年を通じてクラシック路線

を歩んだのはワカテンザン、アズマハンターの二頭。それと、最近是新馬におりるのが遅くなっている傾向がある。3歳からずっと調子を持続してくるものが少ないし、北海道3歳Sを勝った馬で、その後成績をあげるものがない。むしろ、4歳春にデビューした馬の活躍が目立っている。
 渡辺 アズマハンターをどう評価すべきか。皐月賞を勝ち、ダービーは3着だった、あのレースぶりには強いという印象を受けた。
 甲佐 ハギノカムイオーについても、千八百斤から二千斤までの距離で持ち味の出る競馬で、あれだけのスピードと強さを発揮できる点は、かなり評価していいのではないか。
 岡部 春は関東にゲイルスポートというテンに速い馬がいたため、レース展開でかなり影響をこうむった。
 今原 ここで各馬についてタタキ台という意味で数字をあけていくので、それぞれについて検討を加えていきたい。バンブーアトラス62^{*}。層が厚いメンバーのなかでダービーを勝ち、神戸新聞杯でも力を見せている。皐月賞馬・アズマハンター、菊花賞馬・ホリスキ

ーが61^{*}。ハギノカムイオー60^{*}。京都新聞杯、神戸新聞杯の連勝を評価したい。ワカテンザン60^{*}。重賞はきざらぎ賞をひとつ勝っているだけだが、スプリングS、皐月賞、ダービーをいずれも2着、安定した力を見せている。ホスピタリテイ、アスワンが59^{*}。ホスピタリテイについては、セントライト記念を勝ち、国際招待のオープンで古馬と戦った力を認めるが、上位馬との対戦が少ないことで議論のあるところだ。
 柴田 バンブーアトラスの62^{*}はいい。アズマハンター、ハギノカムイオー、ワカテンザンが1^{*}。下の61^{*}ではないか。バンブーアトラスとアズマハンターの比較が問題になるが、アズマハンターは秋の実績がないので1^{*}差を見るのは妥当だろう。
 岡部 アズマハンターの皐月賞勝ちはもちろんだが、不利がありながら3着と好走したダービーの成績を高く評価すべきではないか。秋は本来の調子ではなかったが、バンブーアトラスと並べたい。
 岩片 62^{*}で並べるのは無理ではないか。並べるとすれば61^{*}だと思う。
 甲佐 ダービーが終った時点では、3着といえどもレースぶりからアズマハンターの実力が上位との印象をもった。

バンブーアトラスの62^{*}にも多少問題があるだけに、この二頭の評価は微妙だとは思う。
 小林 バンブーアトラスのダービーの勝ち方は強かった。例年のダービー馬と比べても、まったく遜色がない。アズマハンターには1^{*}差があるのではないか。
 柴田 アズマハンターの春の実績は評価されるが、秋の成長が認められない。
 岡部 仮定の話だが、もし、アズマハンターが、ダービー後に出走していなかったとしたら、ここで非常に高い評価を得ることができたはずだ。その馬のピーク時の力を評価してやるべきではないのか。
 柴田 歴年の例を見ても、62^{*}というのはかなり強力な馬という評価になる。サンエイソロン、モンテプリンスが61^{*}だった。皐月賞だけのアズマハンターを62^{*}というのは難しいと思う。
 岡部 例年のダービー馬は、ダービー以外にも一応の成績がある。バンブーアトラスにはそれが無いし、アズマハンターは、仮にダービー3着がなくても61^{*}の評価にはなるだろうし、例年の皐月賞馬とダービー馬の関係と同様に考えてもよいと思う。

62	バンブーアトラス
61	アズマハンター
	ホリスキー
60	⑩サルノキング
	⑩ハギノカムイオー
	※ビクトリアクラウン
	⑩ホスピタリテイ
	ワカテンザン
59	アスワン
57	※シャダイアイバー
	※ミスラディカル
	⑩※メジロカーラ
	⑩※リーゼングロス
56	アキビンゴ
	アサカシルバー
	シルクテンザンオー
	ロングヒエン
55	エリモローラ
	ハシローディー
	バッシングサイアー
53	アカネジローマル
	アグネスシャトー
	⑩イーストボーイ
	トウショウベガサス
	ミョウジンホマレ
	⑩メイショウキング
	※ヤマノシラギク
	⑩※ユーセコクイン
52	カネアスカ
	ゲイルスポート
	シンウルフ
	ダイセキテイ
	タカラテンリュウ
	※ダニッシュガール
	※ツキマリー
	⑩トーワカチドキ
	⑩ニシノエトランゼ
	⑩※バタイユ
	バークスポート
	※ピアレスレディ
	※ファイブソロン
	※マサヒコボーイ
	※メジロエニフ
	ヨロズハビネス
	⑩※ラブリースター
	⑩ワイエムアロー

(計46頭)

※牝馬 ⑩父内国産馬 ⑩播せん馬
 ⑩外国産馬 ⑩公営出身馬 ⑩市場取引馬

甲佐 モンテプリンスのときも、非常に議論があったし、サンエイソロンについても、評価が割れた。そしてこの二頭はいずれも61*に落ち着いた。アズマハンターについては、この二頭との比較が問題になるのではないか。

岩片 モンテプリンス、サンエイソロンより上にはいかないだろう。また、歴年の皐月賞馬と比べても、アズマハンターは61*に置くべきではないか。今原 最終的に、バンブーアトラスのグービーという格を重視して、単独の62*、アズマハンター61*でどうか。

柴田 むしろ、アズマハンターとワカテンザンを並べるのはどうだろう。渡辺 ワカテンザンが安定した力を見せたといっても、勝ったことによって評価されるわけだから、勝ち負けで線を引かなければならないだろう。

柴田 当然そうであるが、ヨーロッパではグレードの高いレースや、また対戦相手の顔ぶれによつては、負けてもそれなりの評価をしている。

岡部 安定した成績があるとはいえ、勝ち鞍はきざらぎ賞だけだし、皐月賞馬と並べるわけにはいかない。

岩沢 年間を通じて活躍し常に安定した力を発揮したワカテンザンを高く評価していると思う。

甲佐 ホリスキーの評価も難しいのではない。菊花賞のレコード勝ちは認めても、時計が必ずしもすべてではない。とくに今年の菊花賞は、ハギノカミイオーをはじめ、先行した有力馬が直線では後退し、結局自分のペースを守ったホリスキーが勝ったとの印象があった。やや異常な競馬だったということがいえると思う。

柴田 アズマハンターとホリスキーを並べるのは、やはりホリスキーの菊花賞を認めたいことだ。

春の立役者・サルノキングは60*までいけないか。

小林 いいと思う。

柴田 ホスピタリティも60*。セントライト記念と国際招待のオープンで力を示した。アスワンはこの二頭より1*下に置きたい。

小林 例年に比べると、59、60*のところにこれだけの馬がいる。層が厚いということが分かる。

柴田 群雄割拠というか、黄金時代を築くことができる顔ぶれがそろっている。

柴田 ビクトリアクラウンを60*にも

つていくことには異議ないと思う。ここから2*差をつけて58*にリーゼンクロス、シャダイアイバー、メジロカール、ミスラディカルを並べられないか。

渡辺 この4頭の58*には無理がない



ビクトリアクラウン

か。56年度のブロードで58*だった。岩沢 桜花賞、オークスの勝ち馬をどう評価するにかかってくる。

小林 リーゼンクロスの評価は高くてもいいと思う。58*で妥当だと思う。

柴田 メジロカールはたしかに春時期はクラシック戦線で地味な成績しかあげられなかったが、秋に入り朝日チャレンジカップ、京都大賞典で牡馬とあれだけのレースをしているのだから強い。クラシックでは負けているが、秋の実績を強調したい。

吉田 有馬記念を勝ったヒカリデュールと半馬身の競馬をしているし、京都大賞典ではカズシゲを負かしている。ミスラディカルの成長度も目を見張るものがあるし、四頭並べて58*でいい。

渡辺 リーゼンクロスは桜花賞を勝つ

てオークス2着だから、58*でもいいとして、シャダイアイバーに同じ評価ができるか。

今原 オークスを勝っているから並べてもいいと思うが、この四頭の58*はちよつと高くないか。桜花賞、オークスともにビクトリアクラウンが不在だったし、過去のオークス馬を見て、ケイキロク56*、アグネスレディー57*、ファイブホープ55*、そして牝馬の三強が集まった年のアイノクレスビンが58*の評価だ。57*に置くべきではないか。

柴田 ビクトリアクラウンを上へ持つていくことも考えられるが、ビクトリアクラウンを60*に置くと、四頭は57*で良いだろう。

◎5歳以上

甲乙つけがたいが、モンテプリンスは近年にない名馬

古馬陣では、春のモンテプリンス、秋のヒカリデュールの強さは衆目の一致するところ。歴代の名馬との比較となったが、春の天皇賞、宝塚記念の実績から、モンテプリンスに64*。ちなみに、過去10年で64*以上の評価を受けたのは、77年のテンポインント65*、トウシヨウボイ64*、74年のタニノチカラ64*。

— それでは、古馬に移りたいが、まず全般的な評価から始めたい。

岡部 東ではモンテプリンス、アンバ―シャダイ、メジロテイター、西ではヒカリデュールと、この四頭が今年

の古馬ではトップクラスにランクされ、特に天皇賞、宝塚記念のモンテプリンス、ジャパンカップ、有馬記念のヒカリデュールの活躍は抜けていた。モンテプリンスについては、

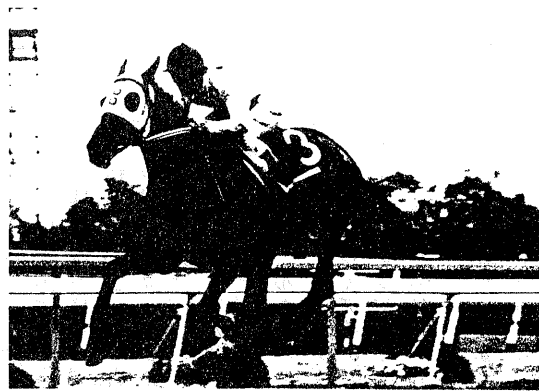
'82年のフリーハンデ 5歳以上

64	モンテプリンス
63	⑨ヒカリデュール
61	アンバーシャダイ
	⑩メジロティターン
60	⑨カズシゲ
	サンエイソロン
59	※エイティトウショウ
	キョウエイブロミス
58	⑨カツアール
	サクラシンゲキ
	※スイートネイティブ
	⑩ミナガワマンナ
	⑩キタノリキオー
57	⑨ゴールドスベンサー
	⑩※ジュウジアロー
	トドロキヒホウ
	※ブロケード
56	オーバーレインボー
	トウショウゴッド
	ノトダイバー
	メジロファントム
55	⑩アジシバオー
	サニーシブレー
	サーベンプリンス
	⑩ビュアーシンボリ
	メイジタイガー
	ロングワーズ
54	⑨タクラマカン
53	アグネスベンチャー
	アリーナオー
	エビスクラウン
	⑨ハンキイナリ
52	⑩※フジマドンナ
	イースタンジョイ
	※オオシマスズラン
	※オオミシャダイ
	※カミノスミレ
	クニノカチドキ
	※サンエムフォーマ
	※タケノダイヤ
	※タケノハッピー
	⑩タツユウチカラ
	タマトップ
	テルノホープ
	⑩※ニシノチェニル
	ネオキーストン
	※ハセシノブ
	ハッピープログレス
	バンブトンハーレー
	マルブツウイナー
	(計50頭)

※牝馬 ⑩父内産馬
⑨外国産馬 ⑨公営出身馬

多数の競馬ファンの期待に応えるため有馬記念出走にまでこぎつけた関係者の努力には頭がさがる思いがした。敬意を表したい。

岩沢 ホウヨウボーイが引退したあと、モンテプリンス、アンバーシャダイにおおいに期待がもたれた。とくに、モンテプリンスの充実が素晴らしいものがあった。春4戦して3勝、天皇賞、宝塚記念を勝ったことは高く評価したい。秋にヒカリデュールが加わったが、ヒカリデュールはジャパンカップ、有



モンテプリンス



ヒカリデュール

馬記念で実に立派な競馬を見せた。モンテプリンスとヒカリデュールの比較が難しい。

吉田 ヒカリデュールが4戦したなかでは、有馬記念はもちろんのこと、ジャパンカップで見た最後の鋭い脚も見事だった。モンテプリンスとは対照的な感じがする。

岩片 春のモンテプリンス、秋のヒカリデュール。この二頭が抜けている。やや差があつて、アンバーシャダイ、メジロティターン、牝馬ではスイート

ネイティブ、ジュウジアローをあげなければならぬだろう。

柴田 モンテプリンスについては、以前から潜在能力を認めていたが、ことしはあの馬の競馬生活のなかで、最高の輝きを見せた。歴代の馬と比較しても、上位にランクすべきだと思う。ヒカリデュールも、ジャパンカップ、有馬記念であれだけの脚を見せられると、モンテプリンスとの比較が難しい。議論の余地がある。そのほかの馬では数段ランクが下がる。カズシゲはマイラータイプの馬で、二頭とは力量差を見なければならぬ。

今原 歴代の高い評価を受けている馬を見ると、77年のトウショウボーイ、74年のタニノチカラが64*だ、モンテプリンスに64*の評価がでないか。小林 完成されたサラブレッドのレースを見せてくれた。無冠といわれながらも、仕かけところで好位に上がって抜け出すというレースぶりが6歳になつて花開いた。完調でジャパンカップに出走させたかった。宝塚記念にしても、レースの格があがつて、メンバーを見て、名実ともにG1のレースとして評価されたし、それを勝っているのも意義を認めなければならない。モ

ンテプリンスに対する評価は高い。春のモンテプリンス、秋のヒカリデュールの比較は非常に微妙だ。

柴田 歴年の馬との比較でいえば、その強さは64*のタニノチカラと遜色がない。死角というものは、どの馬にもあるものだが、春のモンテプリンスはひとり王道を歩いたという感じがする。64*に評価したい。

今原 モンテプリンスのような馬は、そうめつたに出てこない。久しぶりの王者といつていい。64*は過去10年間に二頭しかないがモンテプリンスは64*に置きたい。

甲佐 問題はヒカリデュールとの比較になる。

渡辺 並べて考えていいのではない。か。ジャパンカップの脚、そして、有馬記念でも、あの位置から届くとは思わなかった。凄腕を見せた。ただ、お互いの強さを認めても、タイプが違うということがいえると思う。

岡部 モンテプリンスは先へ行つて抜け出す近代競馬のタイプ。相撲でいえば安定した強さをみせる大鵬型、ヒカリデュールは鋭い決め手で強さをみせる柏戸型といえる。どちらかというとヒカリデュールには、安定性にやや欠

けるところがある。天皇賞でメジロテ
イターンに負けたのも、そういった感
じがあった。

甲佐 モンテプリンスほどの強さを印
象づける馬は、そうは出てこない。

渡辺 ただ、これからはジャパンカッ
プを評価していかねばならないか
ら、ヒカリデユールとの間に差をつけ
ることができるか。

岩片 前年のホウヨウボーイが天皇賞
に勝ち、ジャパンカップ6着、有馬記
念2着で63*。

柴田 やはりモンテプリンスをひとつ
上に置きたい。

小林 両者の間に1*見たい。

吉田 1*はどうか。ジャパンカップ
と有馬記念、それに朝日チャレンジカ
ップにしても中央初挑戦で勝っている。
渡辺 丈夫なうえに力強さをヒカリデ
ユールは持っている。前年のジャパ
ンカップのメンバーと比較すると、大き
な差がある。そこで5着は高く見なけ
ればならない。

柴田 本来だと、有馬記念を勝って62

*という評価になる。だから、ヒカリ
デユールはジャパンカップ5着を加味
して63*ということになるのではない
か。63*も決して低い評価ではない。

小林 歴史と比較しても63*は低い評
価ではない。ホウヨウボーイ、フジノ
バシアと並ぶことになる。

今原 モンテプリンス64*、ヒカリデ
ユール63*で妥当だと思ふ。

柴田 この二頭のほかは、少なくとも
2*の差を見なければならぬ。メジ
ロテイタン、アンバーシャダイが61*。
さらに1*つけてカズシゲ、それ
にサンエイソロン、勝ったのはサンケ
イ大阪杯。

今原 59*に毎日王冠を勝ち、宝塚記
念でも健闘したキョウエイプロミスだ

ね。また、サクラシンゲキの評価を検
討しなければならぬ。

柴田 サクラシンゲキは今年は勝ち鞍
はないが、マイラーズC、スプリンタ
ーズSがいずれも2着と健闘、非凡な
スピードをみせてくれた。58*の評価
ができる。

岩沢 59、58*あたりに牝馬がくるの
ではないか。

柴田 エイティトウショウもかなり評

◎3歳馬

西の層は厚い。その頂点に ダイゼンキング

現時点では、西の3歳馬の層が厚く、東を圧している
との評価がついた。だが、4歳クラシックに向けて、ま
だ序列が固まっているわけではなく、4歳になって評価
は一変する可能性がある。

——最後に3歳馬を検討していただき
たい。

今原 北海道3歳Sから朝日杯3歳S
までのレースをふりかえってみると、
関東には傑出馬が見当たらない。朝日
杯を3戦目で制したニシノスキーを上
位に評価しなければならぬが、秋に
入って活躍のデアリングパワー、ドウ
カンヤシマ、ビンゴガンタと比較する
と、現時点では差のないメンバーとい
つていいのではないか。京成杯3歳S、
朝日杯3歳Sの勝ち馬も変わっており、
前年のホクトフラッグと比較して54*
の評価をしたい。

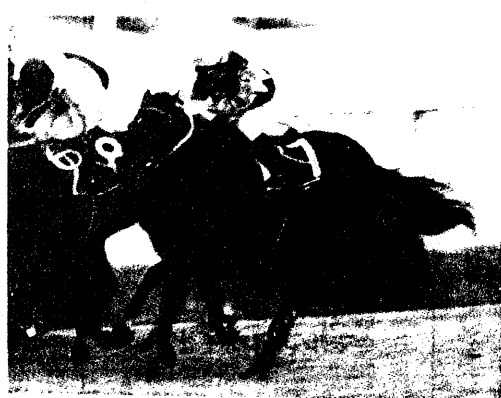
柴田 関東馬ではニシノスキーが一応
トップにくると思うが、関西馬は層が

価をしてもよいと思う。

渡辺 中山記念、東京新聞杯でモンテ
プリンスと互角の勝負をしているくら
いだから、前年のハギノトップレディ
と並びの59*でいい。

岡部 58*がスイートネイティブか。
牝馬東京タイムズ杯でビクトリアクラ
ウンを問題にできなかったレースは特に
印象に残っている。57*にプロケード、
ジュウシアローとなる。

厚い。現状では関西馬若干優勢と見て
いだろう。新しい種牡馬でステイー
ルハートのようにスプリンター血統の
産駒の活躍が目立っているのも特徴だ
が、トウショウボーイの産駒の活躍も
素晴らしい。とくに、ダイゼンキング
はスピードもあり、粘っこい競馬がで
きるので、かなり高く評価してもいい。
前年のホクトフラッグと比較しても遜
色ないのではないか。東西を通じて単
独のトップに評価すべきだと思う。
岩片 ダイゼンキングの将来性につ
いていえば、体も立派だし、阪神3歳S
のレースぶりから見ても、かなり高く
買えるのではないか。前年のサルノキ
ングにも見劣りしない。3歳馬ではト



ダイゼンキング

ップランクの馬だ。

岩沢 東には3歳牝馬Sを勝ち、目下
3戦3勝の牝馬のダイナカールがいる。
小林 牝馬では西のシャダイソフィア
と並んで、遜色のない器と見ている。
渡辺 現時点では関東馬の劣勢は否め
ないが、これから距離が伸びてくれれば
期待の持てる馬がいる。

吉田 関西馬優勢のなかでも、ダイゼ
ンキングが一番手だ。安定感、素直さ
から見ても、今後さらに伸びてくるタ
イプだ。ほかに北海道3歳Sのマック
スファイアーも忘れることはできない。
シャダイソフィアもかなり上にランク
されていいと思う。ニホンピロウイナ
ーの実績も評価しなくてはいいけない。

柴田 前年のホクトフラッグが55*だ
ったが、ダイゼンキングを単独トップ
の55*で異論はないと思う。スピード
といい、勝負強さといい、競走面の良
さを備えている。今年の3歳リデー
ィングサイアーとなったトウショウボ
ーイの代表産駒といえるだろう。二番手
に54*でニホンピロウイナー。デシリ
ー杯3歳Sを含めて4戦3勝。以下に
ついて別表を参考にしてもいい。

'82 年のフリーハンデ

3 歳 馬 (東)

- 54 ニシノスキー (マルゼンスキー=モミジ)
- 53 ※ダイナカール (ノーザンテスト=シムダイフェザー)
- ⑩デアリングパワー (テスコボーイ=エリモノール)
- ⑩ドウカンヤシマ (タケシボウ=ドウカンミキ)
- 52 ヒンゴカンタ (コインドシルバー=ユウコ)
- ウメノシンオー (ファバージ=ルード=メン)
- キングバシフィック (ダイアトム=サマーミッシュェル)
- ※スティールアサ (スティールハート=アーンティ)
- スピードトライ (トライバルチーフ=レットバーシャー)
- ⑩⑩ブルーダーバン (アローエクスプレス=ネバーライト)
- ⑩ミスターシービー (トウショウボーイ=シービークイン)
- 51 ミヤコオードス (ハードツ=ビート=ハニーレイン)
- アジャソロン (バーソロン=ファバーセダン)
- インターリニアル (クラウドプリンス=クイングランプリ)
- オーバーラック (バーソロン=エムノスター)
- キクノフラッシュ (アーケティックフラッシュ=ワカマツ)
- ※サクラオーゴン (マラケート=サクラグローブ)
- ストロングダイナ (ハンターコム=シャダイナシユア)
- ダイナアトラス (ノーザンテスト=アケボノ)
- タケオーギ (ボールドラッド=サチグリーン)
- ※チェリーシロー (フォワードバス=チェリーターフ)
- ※チズブエ (ダイアトム=チェリーユキ)
- ノーザンタカイ (ノーザンディクテイター=タカイオーザ)
- ハヤムサシ (ダイアトム=ハヤシゲル)
- ビッグダンディー (ダンディルト=アン)
- ⑩ファイブオーシャン (タイテム=サウンドスピード)
- フジサンオーチーフ (トライバルチーフ=スカイプリンセス)
- ※プロメイド (マルゼンスキー=ハワイアドーン)
- ※ミズリナ (フランキンセンス=ヤマトキクカ)
- ⑩※メジロハイネ (メジロゲッコウ=メジロハリマ)
- 50 ※ヤマトアンサー (ノーザンアンサー=マウンドアゼン)
- アグネスハンタ (ハンターコム=ロイヤルサッシュ)
- アップセッター (ダンディルト=クレージーキルツ)
- ⑩イカリコトブキ (サンプリンス=ダイフォード)
- インタージョイフル (クラウドプリンス=リュウオリオン)
- キャプテンダイナ (ボールドアンドエイブル=タミアナ)
- ⑩※コスモボリタン (トウショウボーイ=ホクトシチセイ)
- ※サクラハツユキ (バーソロン=サクラジョー)
- ※サクラバトラ (バーソロン=シリネラ)
- サクラリーダー (サンプリンス=ロッチ)
- シルバークラウン (カラード=ミトモクイン)
- スーパーモーメント (スティールハート=ローズハニー)
- チュデキング (ネヴァーダンス=チュデスタ)
- ※トウコウダンサー (ノーザンテスト=ミヨトウコウ)
- マイルドシロー (ファーストドーン=ハードシロー)
- ⑩※マルゴラッキー (プリンス=アマンドラ)
- ミスターアサ (ノーザンアンサー=アンバーフラッシュ)
- ※モミジダンサー (ヴァイスリーガル=モミジII)
- ヤンキースシチー (シャトーゲイ=リンネス)
- ⑩ユウフブキ (ユウシオ=ミズユウサチ)
- ユキノマサル (ファバージ=ミズシラオキ)
- ヨシノエデン (クロケット=コガネエデン)

(計52頭)

3 歳 馬 (西)

- 55 ⑩ダイゼンキング (トウショウボーイ=ブライヤア)
- 54 ニホンヒロウイナー (スティールハート=ニホンヒロエバート)
- オオショウハーレー (アレグザンダザグレイト=アイシユウフラック)
- 53 ※シャダイソフィア (ノーザンテスト=ルーラースミストレス)
- マックスファイアー (フォワードバス=ナスノヒバタ)
- メジロモンスニー (リマンド=ドウヤアミ)
- ルーキーオー (フレアリングダンサー=ルーキー)
- エリモタイヨー (バーソナリティ=ゾーン)
- 52 ⑩カツラギエース (ボイズ=ボーイ=タニノベンチャ)
- サンエムヒーロー (トライバルチーフ=マナバリ)
- タケノヒエン (ホープフリーオン=トキノカホウ)
- ⑩⑩ブルータイヨー (トウショウボーイ=ハマリック)
- ボールドナムラ (ボールドリック=セーインダヤ)
- 51 ※イエローブイリボン (ノーザンアンサー=マサエイジョー)
- ウズマサリユウ (ファリングドン=ハルスター)
- ※サンエイホープ (ファバージ=ヤマキグローリー)
- ※シマノリマンド (リマンド=サリュウエイション)
- シルクノーザン (ノーザンネイティヴ=オムロ)
- ドマーニ (バーバー=ミスヨーコ)
- ハシケングレイト (アレグザンダザグレイト=ハツスマイル)
- ハンブーハンター (モバリッズ=オレンジニバス)
- ※ビクトリジョー (インターメゾ=ジョータカバル)
- マチカネズイカク (コインドシルバー=ハレミノル)
- マンジュデンガイ (ビートカー=クリホット)
- ⑩メジロレマノ (メジロゲッコウ=メジロローズ)
- ユーショウキング (キングスカンビー=ライトメリー)
- リードホーユー (マラケート=トモノヒカル)
- ロングローラー (ラッキーズプリン=タナリス)
- カオルオー (サンシー=ミドリエース)
- 50 ⑩カツトッポオー (シンザン=カツヤヨイ)
- ⑩※カミアサヒ (グリアスオー=カネジョリー)
- キョウエイグレイト (アレグザンダザグレイト=キョウエイサイド)
- ⑩キョウワトウショウ (トウショウボーイ=キョウワジョー)
- ケイリーダ (ラディガ=ケイスパーコ)
- ⑩※ケンセイアトム (シルバーネロ=ケンセイサクラ)
- ※スイートストーク (リマンド=スイートフォルコン)
- スズカコバン (マルゼンスキー=サリュウコバン)
- スルガシャトウ (シャトーゲイ=カコワクイン)
- ⑩タイヨーソプリ (ソヴリングリーム=カズノニッポン)
- ⑩トローダーダイオー (サラ系 キタノダイオー=ネイティヴリフレイン)
- ※ニシノイブ (シャンペンチャーリー=ニシノカオル)
- ⑩バイオレットバサー (ブルーバサー=ニシキノ)
- ヒノデワールド (バーソナリティ=イッポウ)
- ヒミノプリンス (イエローブッド=ホーエイスプリング)
- ※フミノハート (スティールハート=フミノオーシャン)
- ※フラワードリーム (フジオンワード=ホッカイハルス)
- ⑩ベルセボリス (トウショウボーイ=ヤマイチムテ)
- ※ポイントゲッター (シルバーシャーク=トサハヤテ)
- ホーセイサンダー (ボールドラッド=フジネバー)
- ⑩マチカネウイッビー (ノーザンディクテイター=グランドチェリー)
- ヤマノバンサー (ノーザリー=アインアロー)
- ⑩⑩ワイドオー (ロングエース=エスティメジロ)

(計52頭)

※牝馬 ⑩父内国産馬 ⑩抽せん馬 ⑩市場取引馬